

第 23 回東北作業療法学会リレーメッセージ

- ① 所属：医療法人徳洲会 新庄徳洲会病院（しんじょうとくしゅうかいびょういん）
- ① 協会会員番号：20640
- ② 氏名：奥山清彦（おくやまきよひこ）
- ③ 所属県士会名：一般社団法人 山形県作業療法士会
- ④ タイトル：今回の地震で学んだこと
- ⑤ 本文：

東日本大震災が発生した3月11日14時46分頃、私は1階のリハビリテーション（リハビリ）室で担当の患者さんとリハビリを終えて帰る前の談話をしている時でした。地震の揺れが始まったため患者さんの体を支えてしばらくの間その場でじっとしていました。しかし、明らかに今まで経験したことがない大きな揺れでしかもなかなかおさまらなかつたため、患者さんに「今回の地震は大きいですね」と言いながらも内心これは危ないのではないかと不安の方がだんだん強くなっていました。揺れがおさまると同時にリハビリ室内の患者さんの無事と周囲の安全を確認し、私は院内の災害対策本部へ報告にいきました。本部では各部署の報告が次々に行われていましたが、当院の上層階（5階や6階）の病棟ではさらに揺れが大きかったようでベッドが動いて壁まで寄っていたところもありました。その後、停電がしばらく復旧する見込みがないことを予測した上で、1階のリハビリの患者さんを各階に戻すことが決まり、4人組みくらいで階段を何度も往復しました。入院患者さんへの非常食の配膳は最上階の厨房から多くの職員が横に並び、各病棟までリレーする方法でその日の夕方と次の日の朝食、昼食と続けました。

今回、甚大な被害に遭ってしまった被災県の状況に比べれば、当院がある地域で起こったことは一時的なライフライン（主に停電）の途絶と物資不足、ガソリンなどの燃料不足程度でした。したがって、次第に明らかになっていく隣県での被害状況に大変胸が痛みました。何か出来ることはないか、でも具体的に何をすればよいのか分からず歯がゆさを感じていました。

作業療法士として何が出来るのか？今回の震災を受けて山形県作業療法士会として行ったことは、山形県に避難されてきた方のリハビリ支援を行うことでした。具体的には特に高齢者を中心にエコノミークラス症候群や廃用症候群の予防、生活環境の改善（環境面）、音楽体操や作業活動などです。とは言ってもこれもまた模索状態で支援活動を行いながら何が出来るのかを常に考えさせられました。ボランティアです！とはいっても避難者の方にとってはありがた迷惑な方もおられるでしょう。何よりも避難されてきた方々の不安な気持ちや悔しい気持ち、悲しい気持ちなどをこちら側が理解することなど簡単に出来るわけもなく、私にとってボランティアに参加した印象としては非常に難しいものでした。

私が今回の震災後に行ってきたことはごくわずかです。東北各県や全国の作業療法士のみなさんが行ってきたことを来年の東北作業療法学会の場で伝えていただき、作業療法士として出来ることをみんなで共有したいと思います。